

## 武蔵野市エコプラザ（仮称）検討市民会議（第1回） 議事要録

- 日 時 平成29年2月20日（月）19時開会 21時閉会
- 場 所 武蔵野市役所412会議室
- 出席者 委員14名、事務局4名  
小澤紀美子委員長、鈴木雅和副委員長、大沢武弘委員、大谷紗知子委員、  
小澤里美委員、上吉川航人委員、木村文委員、塩澤誠一郎委員、志賀和男委員、  
新立利也委員、田中稔委員、長島剛委員（代理出席）、村井寿夫委員、郡護委員
- 議事等
- 1 エコプラザ（仮称）検討市民会議の委嘱状の交付
  - 2 委員自己紹介
  - 3 委員長・副委員長選出
  - 4 会議実施要領（案）について
  - 5 スケジュールについて
  - 6 エコプラザ（仮称）検討の変遷について
  - 7 第四期新武蔵野クリーンセンター（仮称）施設・周辺整備協議会「エコプラザ（仮称）事業のあり方中間まとめ」について
  - 8 意見交換

### 1 エコプラザ（仮称）検討市民会議の委嘱状の交付

委嘱状交付後、堀井副市長より挨拶を行った。

### 2 委員自己紹介

発言者	要旨
委員	市立小中学校長会から参加。本宿小学校の校長をしている。学校の代表として、これから環境教育に力を入れていくところなので、どれだけ活用できるか、貢献できるかという視点から話を聞き、意見を述べていきたい。
委員	公募で参加している。学生の頃から環境系NPOに関わり、現在もNPOの活動やコンサル等を行っている。3歳の子どもがいる母の視点から、また、今まで培ってきた環境系NPOの活動の視点から、協力したいと思っている。
委員	水の学校サポーターから参加している。水の学校は下水に関する連続講座で、今年で4年目を迎える。水の学校サポーターは修了生たちで成り立っている。団体として組織化していないため、あくまでサポーター個人としての発言になるが、ご了承いただけたらと思う。
委員	公募で参加している。武蔵野市に住んで15年になる。小学5年生と保育園に通う女の子がいる。環境に対しては、なかなか自分ごととして捉えることができなかつたが、会議に参加することで意識していきたいと思う。

委員	新武蔵野クリーンセンター（仮称）施設・周辺整備協議会（以下、「周辺整備協議会」という。）は、クリーンセンター周辺の3団体を含む方たちが参加しており、この会議には、その3団体から代表が参加している。クリーンセンターでは、建設当初から、周辺の町内会代表を含めたクリーンセンター運営協議会が運営をチェックする機関として話し合いをしてきたが、武蔵野緑パークタウンというURの団地に住んでおり、この運営協議会にも参加している。パークタウンは20年前に建替えを行ったが、建替え前の緑町団地の時代、クリーンセンターができた30年前から参加しており、クリーンセンターを通して環境のことを学んでこられたと思っている。
委員	周辺整備協議会に参加しているうちに、とうとう武蔵野市に引っ越してきてしまった。2年半になる。
委員	周辺整備協議会の北町五丁目町会からの代表として参加している。新クリーンセンターの場所を決める委員会にも参加していた。仕事は公園・緑地の設計をしている。エコプラザとなる建物に対する印象は、初めてのイベントに子どもを連れて行ったとき、プラットホームでコンサートをやっていたが、すごくきれいだった。最近もイベントの中で、幼児が出入りしておもちゃを持って帰るようなことをやっていて、そういったことが非常に長く続いている良い伝統だと思っている。こうしたことを生かしたいと思い、参加した。
委員	多摩信用金庫から参加している。地域金融機関として様々な面でお役にたてること、また、ご意見を言えることがあると思う。
委員	市の環境部長をしている。資料2の備考欄に市のいろいろな課が記載されている。環境部は、環境政策課、ごみ総合対策課、クリーンセンター、下水道課、緑のまち推進課の5課で構成されており、平成24年10月にできた。環境には、いろいろな捉え方や切り口、見方があるため、簡単に理解が進まないことに日々苦悩している。
委員	太陽光発電所ネットワークというNPOから参加。団体名が長いので、PVネットと略している。自宅に太陽光発電を設置している個人ユーザの団体。前職は日本生協連という生協の卸売り元のような組織で20年ほど働いていた。2006年に地球温暖化問題の深刻さを知り、脱サラして省エネ、太陽光発電の普及活動をしている。武蔵野、三鷹にも市民がお金を出資し合って作った市民協働発電所があり、三鷹の明星学園の屋根を借りてつくっている。
委員	筑波大学の芸術系に勤めている。専門は緑地設計。西久保に60年ちょっと住んでおり、今年定年退職。大学との兼務で、経済産業省で発電所の環境アセスメントを担当している。また、2年後に廃止される水戸市の清掃工場の跡地利用について検討することになった。クリーンセンターつながりで進めたいと思っている。

委員	イトーヨーカ堂から参加している。武蔵野市とは 2015 年 11 月に包括連携協定を結んでいる。ステークホルダーの皆さんと一緒に小売としてできることを考えていきたい。全体のマクロミクロから、サプライチェーン全体から見ると、エコプラザについて考えていけたらと思う。
委員	クリーン武蔵野を推進する会から参加。環境問題とごみの両方に取り組み、今年でちょうど 40 年になる団体。ごみの問題の基本は発生抑制。最近では、地域でみんな楽しみながら資源化したり、ゴミの量を減らしたりする活動が増えてきている。情報を発信する場所の少なさや一番の悩みの種である人手の問題など、エコプラザの機能の一つとして、エコプラザの中に入り込んで、活動の輪を拡げていけたらと思っている。
委員	周辺整備協議会の緑町三丁目町会から参加。7 年程前に緑町三丁目に移ってきたことをきっかけに、新クリーンセンター事業に関わっている。昭和 50 年の旧クリーンセンター建設時から積然としない思いを抱えたままの方が周りにいることに気づき、それを踏まえてこの事業にどう関わり、どう向き合い、どう取り組めば良いかを考え、整理するために時間を費やしてきた。費やした時間と労力があって、第三期周辺整備協議会の報告や、本日の資料、第四期の「エコプラザ（仮称）事業のあり方中間まとめ」のような整理ができた。第三期の報告書については委員の皆さんに一読いただき、それも含めて検討してもらいたい。

### 3 委員長・副委員長選出

小澤紀美子委員長が推薦され、全員の賛成を得た。

発言者	要旨
委員長	周辺整備協議会の委員をする以前から武蔵野市とはつながりがあった。新クリーンセンターの建設に関わるうちに、緑町の UR に引っ越してきてしまった。皆さんに愛されるように景観に配慮したクリーンセンター同様、エコプラザもぜひ、皆さんに愛されるように、そして皆さんと一緒に作り上げていきたい。低炭素社会と言われながらも、ライフスタイルに身近な廃棄物や環境のことを知っているようで知らないのが私たち。共に学び合いながら、よい意見を出し合い、そして経験を分かち合い、良いものにまとめていきたい。

続いて副委員長について、小澤委員長が鈴木雅和委員を指名し、全員の賛成を得た。

発言者	要旨
副委員長	大学の前は、UR の前身の日本住宅公団に 15 年ほど勤め、団地を設計していた。緑町の建替えには関わっていないが、教え子が何人か UR に勤めており、担当していたようだ。私が設計したものを教え子たちが壊し、建替えている。クリーンセンターもいろいろなことがあって稼働し、それが次のクリーンセンター

	に更新された。時代の流れの中で、時間差や意識の差などもあるかもしれないが、そうしたものを合わせながら、皆さんが納得するような空間ができるように、いろいろな意見を出し合って、すり合わせていけたらと思う。今、関わっている水戸でも反対運動があったようだが、地域の誇りとなるような空間となって、市のために役に立つ、そうしたことへのリスペクトが基本にあるべきと思っている。
--	---

#### 4 会議実施要領（案）について

発言者	要旨
事務局	資料3「武蔵野市エコプラザ（仮称）検討市民会議実施要項（案）」について説明
委員長	ただいまの説明で意見等はあるか。
委員	第4条の会議の記録は、公開を前提とした議事録と思うが、逐一なのか要録なのか。
事務局	要録を考えている。

#### 5 スケジュールについて

発言者	要旨
事務局	資料4「エコプラザ（仮称）検討スケジュール」について説明
委員長	質問・意見等がなければ、このように進めていくことでお願いしたい。

#### 6 エコプラザ（仮称）検討の変遷について

#### 7 第四期新武蔵野クリーンセンター（仮称）施設・周辺整備協議会「エコプラザ（仮称）事業のあり方中間まとめ」について

発言者	要旨
事務局	資料5「エコプラザ（仮称）検討の変遷」、資料6『第四期新武蔵野クリーンセンター（仮称）施設・周辺整備協議会「エコプラザ（仮称）事業のあり方中間まとめ」』について説明
委員長	多くの情報が提供されたが、5月くらいまでは情報共有の期間ということなので、忌憚のない意見・質問をいただきたい。
委員	クリーンセンターの建替えに関する経緯をご理解いただくため、話をしたい。新クリーンセンターは、煙突を挟んで反対側に建てた、それで良いじゃないかと多くの方は思っていると思う。用地選定の議論から参加してきたが、前のクリーンセンターを1回限りということで建てたにも関わらず、この間、検討してこなかったことを反省している。ごみの焼却場は、県境や市境、用途地域と

	<p>しては準工業地域などにあり、住宅街に建つことは非常に稀だった。建替えにあたり、市内の別の土地を探したりもしたが、結局、ここしかないという結論になった。地元としては、今後30年、ここにあり続けるのは非常に重要なことで、ごみを焼却処理することに、みんなで向き合っていくべきだと思っている。ごみの減量は当然として、焼却場の分散化、また、他市のように一部事務組合を持って、他市と分け合って処理する方法もある。こうしたことをきちんと考えていかないと、今回の建替えの1回限りを、もう一度受け入れるのは、少しモヤモヤした気持ちが残る。周辺整備協議会では、こうした問題を転換し、クリーンセンターを誇れるものにしようというところまで、話し合いを進めてきた。この地域と他の市域の方とでは温度差があって、理解できないこともあるかと思うが、こうしたことを伝えておきたかった。</p>
<p>委員長</p>	<p>どこの自治体でも、ごみ処理場はなければいけないが、家の裏庭にはつくってほしくないという非常に大きな倫理上の課題がある。苦渋の選択で受け入れ、より良いものにしていこうといった話し合いの歴史を踏まえ、低炭素モデル、コミュニティー、新しいまちづくりの3つの視点を考えた。エコプラザに関しては、広く皆さんで議論していくということで、今日のこの会議につながっている。多様な環境に関わる取り組みと一緒に考えるとともに、与える影響なども考えなければいけない。皆さんの共感を得て行動に移すことが、クリーンセンター建て 替への基本的な議論だったので、この会議でもそのように進めたい。 子どもの行動変容を促すには共感力が必要で、一般市民の方も同じと思う。まずは知ってもらうことで、より良い環境づくりに関わられるように、市民の皆さんと共につくっていききたい。ごみ問題は、素材に戻していくことから考えているのが周辺整備協議会での議論の原点。貴重な税金を使うので、それを焼却するだけでなく、資源としてどう活用し、生活に生かしていくのかといった議論が背景にある。言葉が難しいといったことでも良いので、ご意見、質問など承りたい。</p>
<p>委員</p>	<p>具体的にここまで決まっている、具体化していることに驚きを覚えた。特に6、7ページで、ソフト面でもいろいろなアイデアが出ている。この会議では何を考えれば良いのか。場所も決まっており、やりたいことも明確になっているように思う。例えば、もっとアイデアを出した方が良いのか、それともコンセプトを見直した方が良いのか、どういった観点から意見を出せば良いのか教えてほしい。</p>
<p>委員長</p>	<p>7ページで言うと、基本的には上の枠とグレーの部分。その下と次のページは出されたアイデアを例示したものなので、これにこだわらず様々なアイデアを出していただきたい。</p>

委員	事務局から説明があったとおり、施設・周辺整備協議会では、ごみ減量の視点からしか検討していない。その視点で出たアイデアを整理したもの。この会議では、もっと広範な環境に関わることを議論していくと伺っているので、いろいろなアイデアを出していただければ良いと思う。ちなみに、32ページに「5つのつぶやきとエコプラザ」として、7・8ページに掲げた事業のアイデアをイメージしやすくシナリオ風にしたものを載せている。後で目を通していただければと思う。
----	--

## 8 意見交換

発言者	要旨
委員	クリーンセンターの運営協議会を十何年やっているが、粗大ごみによる事故が10回以上あった。大きなものは修理費用が何億もかかっている。原因はよくわかっていないが、入れてはいけないガスボンベがごみに混ざっていたことが多くあった。運営協議会では、その都度、市民にごみのことをもっとよく知ってほしい、クリーンセンターをもっと大切にしてほしいと、市に発信を要望し、運営協議会だよりという広報でもお知らせしてきた。運営協議会の一番の願いは、もっとクリーンセンターを知ってほしい、ごみの分別のことを考えてほしいということで、突き詰めると生活環境全般のことと思っている。それをみんなと一緒に考えることは、とても良いことで、常日頃から、クリーンセンターのことを知ってもらえるように、発信できる施設があったら良い、また、そういうことを考える人たちが交流できる場があったら良いと思っていたので、今回はそのチャンスと捉えている。専門の方や市民団体の方、この地域外の方々から、いろいろな意見が出てくることで、より一層充実した内容になると良いと思う。
委員	境南町に住んでいるので、距離的にクリーンセンターから最も遠い。コミュニティセンターの活動に加わり、クリーンセンターを見学したが、一番遠い境南町の住民として、もっとクリーンセンターに関心を持たなければいけないと思った。当時は中央線が南北に行き来できなかったが、今はできるようになり、市役所が近くなった。そういう視点で私たちの活動を見ると、クリーンセンターで賄いきれないものを、できるだけ地域分散で、少しずつでも自分たち、市民の力で処理していく。これが長い目で見て、クリーンセンターを助けることになると思っている。現状では西と東に偏っていて、畑のない吉祥寺では、活動ができない。地域分散の活動は地域住民の覚醒にもなり、地域住民にとっても、意識を持つきっかけになり得ることがわかってきた。これが当会の使命なのかもしれないが、一つの側面と思っている。
委員長	中央線が高架になったのも、バージニア・バートンの「小さいうち」のよう

	に都市化が進み、人口が集中し、そしてそこにはごみ問題、環境への影響などがあると言える。
委員	こうした問題で関心を持つのは、自治体によって、ごみの処分の仕方が違うこと。分別の仕方も、燃やすところは全部燃やしている。武蔵野市の場合はどこまで分別をして、どうしてその分別の仕方をすることを選んでいいのか、市民に説明する必要があると思う。リサイクル疲れとか、押し付けがましくなると、「もうやめた」と、開き直った考えも出てくると思う。武蔵野市はここが違うということをはっきりと市民に説明してほしい。杉並区に住んでいるので、武蔵野市との違いが気になっている。
委員長	ごみの情報は広報等でもしているが、より丁寧にやっていく必要がある。若い方も移住してきているので、丁寧にやらないといけない。この会議にも若い委員がいるので、若い方のセンスで広報なども考えていきたい。ごみ処理は、基本的に自治体が税金で処理をしている。古くは杉並区の「ごみ戦争」があり、日の出町の最終処分場の問題などもあった。今は法律が変わり、各地区内で処理しているが、政策はそれぞれ違う。新しいクリーンセンターは、エネルギーの課題や災害にも対応し、市役所周辺の公共施設にクリーンセンターでつくられたエネルギーを供給し、有事のときにはクリーンセンターの広場に集合できる体制が考えられている。また、武蔵野市では、様々なことが住民参加型で行われ、いわゆるコミセン方式が40周年を迎えており、そこが他の自治体とは違う。そうしたことも加味して皆さんの参加型で、ごみから広く環境へと、議論を橋渡ししていきたい。エコプラザは、事務棟とプラットホームを廃棄物にしないという考えが基本にあり、どういった機能を持たせ、住民参加型の啓発機関として生かせるかを考えるために、この会議が始まったと理解している。委員には、杉並区の広報と武蔵野市の広報を読み比べ、記述の不足など、教えていただけるとありがたい。
委員	関連して、クリーンセンターの見学会をこの会議のメンバーでやってみてはいかがか。運営協議会は、クリーンセンター建設時に地域住民と操業に関する協定を結び、この30年間、2か月に1回、もうすぐ215回になるが、運営に関し、ずっとチェックしてきた。市が一方的に決めたことはなく、市民が納得するまで話し合いを続けてきたので、私たちにもそれだけの責任があると思い、学習してやってきた。それが武蔵野市の市民参加だと思っているし、ぜひ、こうした輪が広がってほしいという思いもある。
委員長	見学会については、事務局で設定してほしい。
副委員長	今の提案に賛成。物を見て発想することは大切。練馬区の光が丘団地の設計に関わったが、やはり団地の真ん中に焼却場がある。板橋区の清掃工場の隣にある熱帯環境植物館の設計にも関わった。他の自治体の清掃工場のことは知って

	<p>いるが、肝心の武蔵野市のことを知らない。ぜひ教えてほしい。委員を引き受けて最初に調べたのは、先ほどリスペクトという話をしたが、このクリーンセンターの仕事の総量。何トン燃やしたのかを市に聞き、体積がどれくらいかも計算した。武蔵野市全域が道路も公園も住宅地も含め、全域2階建ての高さまでごみで埋もれるくらい。それだけの仕事をクリーンセンターが廃炉になるまでしてきたことと、その施設を受け入れてきた地元へのリスペクトは、総量で見ると本当に驚く。そこで初めて減量という意識が出てくる。実態がわからないと比較ができない。客観的に原単位を知り、子どもたちに例えて換算して伝えると、わかりやすいと思う。そういうことを知らないままディテールを議論するのではなく、まずはマクロでつかみ、その中身の大きさを知るところから始めると良いと思った。</p>
委員	<p>いろいろな場でごみや下水の話をする機会がある。市民の方に、ごみの状況と話すと、23区と何が違うの？なんで武蔵野はこんなに細かく分別するの？と聞かれる。23区は1つの行政機関として東京湾の夢の島に最終的に持って行けるが、多摩にはそうした最終処分場がなく、苦勞してきた歴史がある。武蔵野のクリーンセンターでは、毎年3万トンのごみを燃やしていて、3千トンの灰が出ることを話したら、皆さん、びっくりされていた。燃やしたらなくなると思っていたようで、伝わっていないことがわかった。3千トンの灰を多摩は苦勞して山の中に持って行ったが、それもやめようというところから、いろいろなことが起こっていると思う。ごみだけでなく、下水の話をすることもあるが、使った水がどうなっているのかも、わかってもらえていない。伝える努力をするのはもちろん、みんなで寄り添って教え合ったりしながら、関心が高まれば良いと思っている。どうやって伝えたら良いか、この会議でも教えていただけたらと思う。</p>
委員長	<p>大切な意見。将来的に、今の話を紙芝居などにして、小学生の参加型でやっていくなど、できるかもしれない。</p>
委員	<p>副委員長がお話された「全域が2階建てまで埋まってしまう」というような、「見える化」することが大事だと思う。例えば家庭からの排出量を何グラムにしてくださいと言っても、イメージできるかどうか。ごみは決して消える訳でなく、燃やしても灰は残る。下水道の話も、上水には関心を持たれているのに、使った後の下水がどこに行くのかは知らない。水の学校で下水道管のことを学んだが、そうした水の循環も「見える化」することが非常に大切だと思うので、その点を発信していけたらと思う。</p>
委員	<p>桜堤に居住しており、クリーンセンターからは少し遠い。これまでの議論の中で、ごみの処分について勉強させていただいたが、クリーンセンターが設置されていることで、事故が起きるリスク等のほか、委員として認識しておかない</p>

	といけないリスク、デメリットを教えてください。
委員長	それについては、おおい勉強していくこととしたいと思う。
委員	まず、質問したい。中間まとめ5ページ冒頭にある「設置目的」に、「基本理念の実現に向けて」と書き出しがあるが、この「基本理念」はどこに書いてあり、どういう内容のものか教えてください。また、耐震診断が進行中ということだが、結果はいつ頃出るのか。意見としては、情報の発信、「見える化」については、すでにたくさんやっている。見に来ない、発信しているが届いていないといった苦勞を、市民団体系の方など、さんざん体験されていると思う。具体的な案はないが、情報発信という言葉は使わず、「情報を伝達する」としてはいかがか。届いている、届いていないということが大事だと思う。
委員長	伝達については、ぜひアイデアを出していただきたい。特に若い方の意見を取り入れていきたいと思っている。耐震化等については、事務局から説明をする。
委員	今のクリーンセンターの事務棟は3階建てで、工場棟を解体する。残る3階建ての事務棟とプラットホームは、プラットホームの高さが、ちょうど事務棟の2階部分にすり合う形になっている。外から見ると、プラットホームが2階建て、事務棟が3階建てになり、建物を切ることで、少し建物としては不安定な要素がある。また、建ててから長い期間が経っており、耐震基準が変わっている。3階建ての事務棟を安全に使うためには、耐震の係数を1.25倍まで上げたいと考えている。3階建てのまま耐震基準に沿って強化するとすると、耐震壁を入れたり、相当手を入れたりする必要がある。事務棟を3階のまま、2階に相当するプラットホームを残すのか、事務棟の3階部分を切り、プラットホームと合わせて真四角の建物として安定させるのか、ということを検討している。
事務局	基本理念だが、平成25年3月の第二期周辺整備協議会の報告書では、「低炭素社会の実現に向けた地域としての取り組み」を基本理念としてまとめられていたが、今回の第四期の中間まとめの中では、「基本方針」に置き換わっているようだ。内容としては、これを指しているものと思われる。
委員長	四期まで続けているので、概念も変容してきている部分はあるが、なるべく同じような言葉を使うようにしている。5月くらいまでは、こうした情報を共有していくプロセスを大事にしていきたい。新クリーンセンターの見学や他の自治体の類似施設の視察なども計画しているので、一緒に勉強しながら、考えていきたい。「見える化」なのか伝達なのかということも、一緒に議論しながら、率直な意見交換をして進めたいと思う。
委員	誰のためにやるのかということを考えると、当然市民のため。三つの基本は理解しているが、KPIのような成果を求めることも考えないといけないと思う。第四期まで試行錯誤や温度差があったと思うが、時代の変化に対し、いろいろな角度から市民の皆さんの意見を聞いていくことが重要と思う。どういう目的で、

	<p>第四期の中間まとめのどこをテーマにするのか、事務局に意見を提出して整理する方法もあると思う。目的がずれてしまわないように、ある程度マイルストーンも必要ではないか。また、弊社のレジ袋ゼロ運動などは、袋を出さないようにするためにはどうしたら良いかを考えることが、非常に重要だったと思う。市の場合は、費用対効果も併せて考えないといけない。武蔵野市は潤沢な商圈を持っているので、それをイノベーションさせて、日本の低炭素社会のモデル市として、世界に情報を発信していくくらいの可能性があると思う。現状の問題点を専門家や一般市民、小・中学生、幼稚園児、高校生、大学生、エコ検定の資格者など、立場を変えたらどう考えるか、柔軟に考えてみてはどうか。市民と一緒に体験・参加しながら、インフラをつくり、ブラッシュアップすれば、モデルとして世の中に出せるのではないかと期待している。</p>
委員	<p>市の施設を「見える化」したい、クリーンセンターを見てほしいといった意見があったが、自治体の施設は、自治体が運営すると見えなくなってしまうように思う。民間の力を活用していくことが非常に大事ではないか。また、もう少し広いエリアでこの立地を考えたとき、本当に必要な施設が他にあるかもしれないと感じた。活用できる市有地があるならば、地域を狭域ではなく広く捉え、必要とする施設ができたなら良いと思った。そこで、民間の活力を活用し、「見える化」、発信をしていくのもひとつだと思う。</p>
副委員長	<p>資料6、13ページの「環境啓発施設視察一覧」に、エコプラザと同じ名前の施設があるが、ごみの博物館のような施設。あれだけの空間を使った施設の可能性をどこから探れば良いのか。ごみの施設をつくるのか、もう少し市全体の機能、あるいは日本中から見に来るような施設を目指すのか。ごみをどの程度、前提条件とするのか。箱に合わせて機能を考えるのか、それともコンペでとんでもない発想が出てくる余地があるのか。運営にしても、様々な事業形態があり、どういう形態をとるかも不可分だと思う。それらをどこでどう意思決定し、この会議でどこまで答申できるのか、その辺りを確認しておきたい。</p>
委員	<p>基本にごみ処理施設の敷地内の施設なので、付帯施設として考えた場合、法的にも、ごみに関する機能は必要となってくる。また、これまで関わってこられた委員の方がお話されていたように、苦渋の決断をしてこの地域が担ってきたという歴史を多くの市民の方に知っていただき、次の環境問題に向かうということだと思う。大事な軸足はごみであり、外せないと考えている。一方、市では、多くの市民の方が環境啓発施設と聞いたときに、様々な切り口から、たくさんの方に来ていただき、そこでいろいろなことに気づいてほしいと思っている。集客や指標も含め、市民の方が望んでいる環境集客施設というのが最大の悩み。立地特性などを考えると、ごみがひとつの軸足であり、かつ、地球温暖化も含めた広範な啓発が投げかけられている時代なので、たくさんの方がこ</p>

	<p>ここに来て、いろいろなことを学び、また来た方がお互いに啓発し合って、次の世界がつくられていくような場所になってほしいと考えている。</p>
委員	<p>この地で建替えを決めたということは、建設時から続く歴史の延長線上で考えるということであり、建替えを経験したことは、今後、また建替える可能性があるということだ。私たちの次の世代が、また、この問題に市民全体で向き合う可能性がある。将来の市民も、ここでどういう議論をし、どういう方向性で検討したのか検証し、評価すると思う。第四期周辺整備協議会では、それを踏まえて、30年後どうなっているべきか目標を立て、今何をすべきか議論してきた。重要なのは30年後の市民に向けて、エコプラザで何をするかだ。資料6の6ページの設置目的に、「資源、エネルギー、ごみ、緑、水循環、生活環境などの多様な視点から環境啓発を行う拠点として設置する」と調整計画の記載を載せているが、「拠点」という言葉が最近気になっている。エコプラザのイメージは、市民の環境に向けた行動のきっかけになる場所で、それをサポートする場所。市民一人一人がエコプラザに行ったことをきっかけに、地元で何か始めることが重要と思う。市民生活の中で、各自が行動を始め、その行動が水平的に広がり、個々の行動が市域全体を覆い、最終的に低炭素化を実現していくイメージ。それは、ごみ減量化に限らず、環境全般に共通だと思う。そのイメージからは「拠点」という言葉は相応しくないように感じているが、皆さんはどう感じられているか伺ってみたい。また、10ページの検討課題で、環境教育については低炭素化を実現するために特に重要だと思うので、どう展開していくのか、その中でエコプラザがどのような役割を果たしていくのか、今後、十分検討していただきたいと思っている。</p>
委員長	<p>「拠点」という言葉が相応しいか、また、環境教育の展開のあり方については、次回までに考えてきていただけたらと思う。この施設を通して何をするかを問われているので、そこを考えていただきたい。皆さんのこれから1年間の議論が、次の市の方針を決めていくことになる。頭を柔軟にして検討してほしい。</p>
委員	<p>資料6の3ページにあるように、エコプラザは建物だが、その隣に芝生広場と新管理棟という、まだ計画が固まっていないところがある。この会議に出席されている水の学校や緑の活動をされている委員の方々にとっては、施設でおさまらない話もあるかと思うので、この関係性も含めて話をさせていただいて良いのか、市に確認したい。</p>
委員	<p>エコプラザで行う広範な環境啓発には、水の循環などもあると思うので、「拠点」をどう捉えるか同様、ここで行われる環境啓発とは何かということを含め、ご議論いただけたらと思う。</p>
委員長	<p>意見を十分に聞くことはできなかったが、次回以降もご意見を賜りたい。</p>